



【韓国】 総合指数は週間で0.4%安と続落、利益確定売りが優勢

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.4%安と続落した。11月初めに過去最高値を更新した後は利益確定売りが優勢で、15日には終値ベースで10月30日以来、ほぼ半月ぶりの安値を付けている。同日には2017年1-9月期の輸出額が同期として過去最高だったと伝わったものの、相場の地合いは大きく改善しなかった。ただ、週末にかけては輸出関連を中心に主力株に見直し買いが入り、下値は堅かった。米株式相場の上昇も投資家心理を支えている。時価総額が最大のサムスン電子、素材株のポスコ、ロッテケミカル、ITサービスのネイバーなど大型株が総じて週ベースで下落するなか、半導体のSKハイニックス、自動車メーカーの現代自動車が上昇した。金融のハナ・フィナンシャル・グループ、小売りのイマートも買われた。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で2.1%安と反落、今週は原油相場次第も反発に期待

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で2.1%安と反落。原油相場の下落と弱い経済指標が嫌気され、軟調な展開となった。ブレント原油価格は、米国での原油供給増加に対する懸念を背景に週央に61ドル前半半まで下落。13日に発表されたロシアの17年7-9月期GDPは前年同期比1.8%増と予想の2.0%増、前期の2.5%増を下回った。16日発表の鉱工業生産は前年同期比で横ばいとなり、予想の1.1%増と前月の0.9%を下回った。これら弱気材料が指数を押し下げ、16日には一時、1109.72ドルまで下落して前週安値を下回った。17日は取引時間内にブレント原油が62ドル前半半まで値を戻したことで、RTS 指数もプラス圏に浮上し、前日比0.5%高の1132.45ドルで週の取引を終えた。今週は原油相場次第だが、反発が期待できそうだ。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で2.6%高と7週続伸、今週は短期的な調整に警戒

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.6%高と7週続伸。良好なセンチメントに加え、個別材料が好感され、買い優勢の展開が続いた。週明け13日から17日まで連日、2008年1月以来の高値を取引時間中に更新。終値では11月3日から16日まで10連騰となった。17日は前場に900ポイント目前まで上昇したが、後場に入り売りに押され、前日比0.2%安の890.69ポイントで引けている。週間では10月の貿易収支が21億8100万ドルの大幅な黒字となったことも支援材料。個別では子会社が先週上場したビンググループが8.2%高、シンガポールの投資家が発行済み株式の5.5%を保有したことが明らかになった時価総額最大のビナムミルクが5.4%高で指数をけん引した。今週は良好なセンチメントは続きそうだが、短期的な調整には警戒が必要。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、17 日の場中に過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%高と反発。週後半の上昇が奏功した。前半は買い材料に乏しく 14 日に終値で約 2 週間ぶりに 6000 ポイントを割り込むと、15 日は 10 月の輸出入が市場予想から上振れしたものの、貿易黒字額が前月を下回ったことが嫌気されて 6 営業日続落。一方、16 日に反動で買われて前日比 1.1%高と反発した流れで、17 日は場中に一時、過去最高値を更新した。今週は国内の重要イベントが少なく、前週末の NY ダウが米税制改革法案の年内成立は困難との見方から反落したことが逆風か。22 日に公表される FOMC 議事録で今後の利上げに関する方向性が示されれば相場を左右しそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.1%安、今週は 10 月の鉱工業生産に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.1%安と反落。週初からじりじりと下値を広げたが、週末の上昇で下落幅を縮めた。14 日は中国の 10 月の小売売上高と鉱工業生産が市場予想からやや下振れした影響で売られ、終値ベースで 3400 ポイントを割り込むと 16 日まで 5 営業日続落。一方、17 日は 10 月の非石油地場輸出が前年同月比 20.9%増と市場予想から大幅に上振れたことが好感され、指数は前日比 1.2%高と反発して取引を終えた。今週は 23 日に 7-9 月期の GDP 確定値と 10 月の CPI、24 日に鉱工業生産が発表される予定で、鉱工業生産の前年同月比の伸び率が 5 カ月連続で 2 桁を維持するかが焦点。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2%高、今週は 7-9 月期の GDP 成長率に注目

SET 指数は週間で 1.2%高と 3 週ぶりに反発。週末の値上がりが見られ、14 日は不動産株とエネルギー関連株が指数上昇をけん引し、4 営業日ぶりに反発して終値ベースで 1700 ポイントを回復。15 日は国際エネルギー機関 (IEA) が前日に発表した月報で、今年と来年の原油需要予測を下方修正したことで原油価格が下落し、指数も反落したが、16 日に買い戻されると、17 日は前日比で 1.1%上昇し、取引を終了した。今週は 20 日発表の 7-9 月期の GDP に対する市場の反応が焦点になるほか、24 日に発表される予定の 10 月の貿易統計 (通関ベース) で前年同月比の輸出額が 2 桁の伸びを維持すれば好材料。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.2%安、7-9 月期の GDP 成長率は 6.2%

クアラルンプール総合指数は週間で 1.2%安と反落。週初から軟調な値動きが続いたが、週末に下げ止まった。15 日に前日の NY ダウが税制改革への先行き不透明感や原油価格の下落を受けて反落したことが嫌気されて売られ、結局 16 日まで 5 営業日続落。ただ、17 日は 7-9 月期の GDP 成長率が前年同期比 6.2%と市場予想の 5.7%を上回ったことに加え、米ドルに対するリング高が進んだ効果で反発した。今週は 22 日に 10 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率の市場予想は 4.0%。外国人投資家による継続的な売りが警戒される中、インフレ圧力が低下すれば株式相場の追い風になると期待される。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。